

参謀本部大陸第七課作成の兵要地誌図資料

〔注記〕

この大型紙袋入りの手書き彩色地図類は、1945年8月の終戦時に、参謀本部（大本营陸軍部）の第二部第七課（通称大陸第七課）において、当時東京大学の地理学教室から派遣され研究動員学徒として勤務していた藤井(石井旧姓)素介が、上司から自宅で保管しておくようにと手渡されたものである。その詳細な経緯は記憶に残っていないが、その当時、焼却用の廃棄処分資料として廊下に積み上げられていたものの中から適当に選び出して、「敵さんの側に渡すわけにはいかないが、将来何かの役に立つかもしれないから君たちの家で預かっておいてくれ」というようなことを言われて渡されたのを覚えている。内容的には、何かの作戦会議等で既に御用済みのもので、それほど大事な機密資料とは思われないが、第七課の職員が苦勞して作成した成果なので捨てるに忍びなかったのであろう。また、同課で自分自身が担当していた作業結果や関係資料も同時に持ち帰った。何れも断片的なものではあるが、当時の日本陸軍の兵要地誌部門が担当していた仕事の一部を、具体的に示す研究資料として今後活用されるよう期待したい。

I 上司より預かった資料

〔紙袋の表書き〕 〈赤筆〉 浙東及江北沿岸地区/空海基地説明図/大陸第七課

<茶鉛筆>支情学報/ 46号：支那沿岸島嶼概況図表

47号：浙東沿岸地区空海基地概況判断図表

〔内容物一覧〕

【1】 <表題>「江北沿岸地区空海基地概見図」（約155×153cm）

<基図用紙>1/30万支那沿岸陸海編合図・経緯度記入（全17枚中の7・8・9号

図3枚の貼り合わせで、北は海州付近から南は呉淞(ウースン)・蘇州付近までを含む)。なお、裏白紙利用の一枚は、小縮尺のニューギニア島図を使用。

<貼付け説明文>「地区の地理的特質」として、海岸線・陸地・飛行場適地について箇条書き。

<彩色の線・面部分の手書き記入事項>

〔黄色面〕棉花農場範囲:概シテ砂質壤土=飛行場設置ノ最適地ナリ

〔茶太線〕范公堤ノ線=棉花地帯ト水田地帯トノ概略境界

〔緑太線〕乾湿田地帯ノ概略境界ト見做シ得

<大型記号>井桁記号：飛行場（既設：紫色=我ガ方・赤色=敵側、黄色=候補地）

<海深線> 黒実線：海岸線

緑点線：7m等深線=駆逐艦及浅吃水艦(5-6m)ノ近接概略線

茶色線：10m等深線=巡洋艦及一般輸送船ノ近接概略線

青色線：15m等深線=戦艦・航空母艦級ノ近接概略線

赤色線：20m等深線=潜水艦ノ浸沈航行可能概略限界

なお、裏面に大赤字で「堤中佐」との記入あり。

【2】

<表題>「浙東海岸地区空海基地（ここに「判断」と追加記入あり）概見図」

昭和 20 年 6 月 大本営陸軍部（約 150×110 c m）

<基図用紙> 1/30 万支那沿岸陸海編合図 第 9+10 号図（上海～温州湾）

<記入事項> 少なし（水深線・飛行場関係等のみ）

【3】

<表題>「太岳地区兵要地誌要図」（山西南部の汾陽・大原・平陽・彰徳地区）

<基図> 東垂 1/50 万・西九行・北一・二段図(民国製 1/5 万図・編成 1/10 万図使用)

<上刷り文字>（昭和 18 年 8 月 25 日 乙集団参謀部）

[赤太字] 1 地形一般、2 道路、4 宿営休養、5 衛生、6 民心の動向、
7 地図ノ使用 [青線] 3 河川

【4】

<表題>「晋西北地区兵要地誌要図」（上記【3】の北側接続地区の図）

昭和 18 年 9 月 15 日（その他は、上記に同じ）

【5】

<表題>「四川及陝西正面主要交通網図」（華中内陸中央部の小縮尺図）

<基図> 1/100 万多色刷り中国大陸航空図 4 面貼合(含延安・成都・齊南・南京)

<記入事項> 各種交通路線・水路(含距離表)・飛行場（既設の大中小型区分・
敵側(赤色)我が方(青色)区分・候補地・不時着用地等を記入）

【6】

<表題>「敵側地区主要鉄道諸元」（墨筆大書による一覧表）

<内容> 昆明・西安・広東・衡陽・貴陽方面の 6 路線の概要表

【7】

<表題>「既往ニオケル熱河山地地誌資料（参考迄）」

<内容> 山地地形・平地における通行障害・道路・河川の概況等の記述

【8】

<表題>「滇越黔桂地区主要交通網図」

<基図> 1/100 万航空図 昭和 20 年 3 月 大陸第七課作成

【9】

<表題>「福建省及東部広東省主要交通網図」 〈上記とほぼ同じ〉

【10】

<表題>「支那沿岸主要島嶼位置概見表」（書類と付図）

<内容> 付表：空海基地説明概見表

付図：支那沿岸主要島嶼概見図

付図：島嶼の比較参考図

【11】

<内容> 1/10 万兵要地誌図を貼り合わせたもの（破れる寸前状態）

以上、預かり資料分 11 点。

II 藤井(現姓 石井)が自分で担当した作業結果と準備作業記録

【12】

<表題> 「西北(支那)諸民族分布並ニ利用価値判断図」 (昭和 20 年 5 月作成)

<基図> 昭和 18(1943)年 6 月陸地測量部調整・製版、中国大陸全図(1/400 万?)

地名は漢字とカタカナで右から表記、水系は青色印刷。

<民族分布> 色別に民族種別の概略分布区域を表現、「混合地域」は 2 色斜線、「分散或ハ出没地区」は単色斜線、「中共勢力圏」は赤色斜線で表現。

<利用価値> 単純化した用語(含・差別語)による箇条書き要旨を記入し貼付。

図の下段に「西北諸民族の省・地域別人口分布構成表」を追加貼付。

【13】

<表題> 「西北諸民族調査資料」 (上記判断図作成のための準備作業記録)

<内容> 民族の分布・人口構成・勢力圏等の概況につき既存文献から抜粋記録。

鳥居龍蔵・橋本増吉・江上波夫・岩村忍氏らの調査資料・講演記録等による。

【14】

<表題> 「武漢反攻關聯地区主要河川輸送能力判断表」 (昭和 20 年 8 月)

<内容> 大判用紙に一覧表化した表記の「判断表」と、これを作る過程で準備した諸資料。その多くは陸軍の雑用紙を使っているが、一部に軍用記録の裏面を使用したものがあり、その裏面の一部に、奥地に進出した現地軍に対して、極力敵側製作の地図を鹵獲するよう要求・奨励する記述等も見られる。

III 同課で作業していた他の動員学徒仲間の作成した資料(偶然同じ袋に在中)

【15】

<表題> 「黄河流域住民の概況一覧表」

「苗族ノ概況ニ就イテ」及「苗族分布図」

「蛋族ノ概況ニ就イテ」

【付】

「大陸第七課ヨリ地図業務ニ就イテノ通達」 (コピー)

以上

2011 年 5 月 15 日 石井素介記

昭和15年度と推定される日本陸軍の地図整備計画

A

參謀本部「外地地圖業務ニ就テ」(通達ラシキモノ)(作業用紙(表面より)見) 2011/5/7

第四、地圖業務ニ就テ

一、地圖整備ノ現況

作戰用地圖ハ五十萬分一編纂圖十萬分一地形圖ヲ基本圖トシ五萬分一圖、二萬五千分一圖等ノ大梯尺ハ相當廣範圍ノ局地圖トシテ整備スル方針ヲ堅持シテアリ尙用途ニ應シ各種梯尺圖ヲ準備スヘシ地圖整備ノ現況ノ細部ハ參謀本部發行機秘密地圖一覽圖並整備ノ進捗ニ伴ヒ隨時ニ發行セル地圖一覽圖ニ依リテ承知セラレ度

參考ノ爲若干ノ參考書類ヲ配布スヘシ

ニ、來年度ニ於ケル地圖ノ整備要領

ノ測量關係ニ就テ

イ、滿洲測量

滿洲測量第二次四ヶ年計畫並昭和十五年測量計畫ハ關東軍トノ連絡ヲ終了シ成案ヲ得タルヲ以テ昭和十六年度豫算書呈出時機又ハ豫算決定時機ヲ待ツテ陸軍省ニ交渉スル豫定ナリ

ロ、蒙古測量

既定計畫ニ基キ昭和十五年分測量ヲ實施スヘク實行計畫ヲ立案中ニシテ測量區域、測量機關ノ派遣要領等ニ關シテハ現地側ノ要求ヲ斟酌スヘシ

ハ、支那測量

當部トシテハ現占據地域外要領要點ノ地域線影ヲ企圖シ昭和十五年分豫算ヲ以テシテ主トシテ嶺南南部地方ノ地域測量並敵側重要地域ノ路線測量ヲ具體化セントシテ主トシテ占據地

B

軍事的取扱法ヲ緩和シ作戰上ニ不便ヲ來ササル如ク軍事秘密ニスルヲ一般トス對支作戰用地圖ハ更ニ秘度ヲ低下シ作戰地ニアリテ行動スル部隊ニ限リ部外秘扱トナシアルモ前記三項目ノ理由ト支那ニ於ケル我作戦上又ハ將來防共駐屯ニ伴フ秘匿地區等ノ未決定等ニ因リ尙全般的ニ秘圖トナシテ依テ各部隊取扱上ノ心算ヘハ他クマテ軍事秘密的ニ嚴重ニシ用濟後ハ燒却又ハ返納スル如クセラレ度

尙取扱法ヲ地域的ニ差異ヲ附シアル現況ハ防諜上極メテ好マシカラサルヲ以テ對支作戰用新地圖整備要領並支那側ヲシテ取締ヲナシムヘキ事項等ヲ併セ考定ノ上地圖秘匿度ヲ速カニ整理シ度、之レニ關シ忌憚ナキ意見ヲ承知致度

四、圖式並註記ニ就テ

文化的地形圖々式ヲ辨シテ戰圖々式ヲ採用スル替ハ陸地測量部ニ於テ多年研究シアルモ未タ成案ヲ得ス

又敵地測量ハ寫真測量ヲ主體トスルヲ要シ而モ實地踏査不可能ナル特性ヲ有スルヲ以テ之レヲ迅速ニ圖化セントセハ在來ノ圖式、註記ニ據リ難キカ故ニ昭和十四年五月空中寫真應急圖化戰用圖々式ヲ制定セリ

本圖式ヲ以テ迅速ニ圖化シ戰機ニ投セシメ情報ノ入手セラルルニ及ビ地誌資料ヲ詳記シテ作戰ノ要求ニ應セシメントセシモノナリシカ更ニ研究シ實際ニ合ハスルモノト致度シ

尙一般地形圖ト關連シ地誌圖ノ圖式、註記モ亦大イニ改訂ノ要アリ

C

ルモノト認メアリ殊ニ詳細ナル情報ヲ得ルニ從ヒ各國ノ特殊事情
 ヲ考ヘ更ニ完全ナルモノヲ制定スヘキモノナリト史料ス
 之等ニ關シ現地圖ニ於テモ研究セラレ度
 其地圖ノ積極的入手（鹵獲）ニ努力セラレ度
 未入手區域ハ假ヘ一枚ノ鹵獲圖ト雖モ價值大ナリ故ニ各部隊ニ是
 レカ實施ヲ特ニ獎勵スルト共ニ大規模ノ戰鬪ヲ計畫スル場合ハ豫
 メ司令部自ラ挺身鹵獲隊（假名）ヲ編成派遣スルヲ可トス
 入手地圖ノ貴重ナル所以ト若シ入手セハ之レヲ速カニ上級司令部
 ニ送付スル件ハ更ニ普及徹底セシメ入手地圖ヲ有效ニ利用スル如
 ク指導セラレ度
 尙現地圖ニ於テ應急複製セシ原圖（入手圖）ハ速カニ大本營ニ
 送付セラレ度
 謀略等ニ依ル買収ニモ努メラレ度其重複ヲ避クル爲從來入手シタ
 ル地域ヲ印刷シ參考ノ爲配布ス
 六支那測量ニ關スル文獻（支那個ノ覆纂シタルモノ）ノ入手ニモ努
 力セラレ度
 是レカ爲新作戰ニ依リ占領シタル重要都市ニ於テハ速カニ其ノ測
 量局等ヲ臨檢整理スルコト必要ナリ各部隊ヲ無統制ニ該局ニ進入
 セシムル時ハ貴重ナル文獻地圖ヲ散逸若クハ燒失スルノ恐れアル
 點ニ留意セラレ度
 七各軍配屬測量班附高等文官ノ充實ニ就テ
 總軍司令部、北支那方面軍ノ外當分補充ハ不可能ナルヲ以テ之カ

D

缺ヲ補フ一時的便法ヲ考慮中ナリ
 八各軍配屬測量班附員若クハ測量手中陸地測量部修技所聽生若
 クハ學生候補者受験ニ關シテハ現地軍ノ希望ニ沿フ如ク目下研究
 中ナリ
 一六